

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年6月20日現在

機関番号：32614

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010～2012

課題番号：22601009

研究課題名（和文） 博物館における人文資料形成史の研究 静嘉堂文庫所蔵松浦武四郎旧蔵資料の研究と公開

研究課題名（英文） Study of the history of the development of humanities materials. Publication of the materials on the goods that were formerly possessed by Takeshiro Matsuura.

研究代表者

内川 隆志（UCHIKAWA TAKASHI）

國學院大學・研究開発推進機構・准教授

研究者番号：80176677

研究成果の概要（和文）：公益財団法人静嘉堂文庫に収蔵されている松浦武四郎旧蔵古物資料約900点の整理が完成した。本研究は近代初期において松浦武四郎に代表される当時の好古家達が蒐集対象とした古物（文化財）の内容を直裁的に示すと共に、明治4(1871)年の太政官布告である「古器旧物保存方」の示す保存すべき器物の内容とも一致することを明らかにした。また、箱書きや文書の翻刻によって古物を取りまく人的ネットワークの実態を明らかにした。

研究成果の概要（英文）：Approx. 900 materials were organized on antiquities formerly in the possession of Takeshiro Matsuura and now owned by Seikado Bunko, a public interest incorporated association. This study clearly shows the details of the antiquities (cultural properties) collected by archaeologists in the early modern era with Takeshiro Matsuura being the most famous. In addition, the materials are consistent with the details of the items preserved and specified in the “Edict for the Preservation of Antiquities and Old Items,” * which was announced by the Meiji government in 1871. The study also revealed the human network surrounding the antiquities by examining the autographs or notes of authentication written on the boxes, as well as reprints of the documents.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2011年度	900,000	270,000	1,170,000
2012年度	1,100,000	330,000	1,430,000
年度			
年度			
総計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：時限

科研費の分科・細目：博物館学

キーワード：博物館学史

1. 研究開始当初の背景

松浦武四郎蒐集古物は、幕末から明治にかけての北方探検家、松浦武四郎が、明治3年(1870)に北海道開拓使判官を辞して以降形成された考古・工芸品を含む古美術コレクションで、武四郎自らが整理し、木箱に収められた状態で公益財団法人静嘉堂に保管され

ていた。考古資料の多くは、武四郎の自書『撥雲餘興』首巻(明治10年刊)、同第二集(明治15年刊)に所収されており、出土地、採集地の特定が可能であることは該期におけるコレクション形成史上稀に見る好資料であることが解った。『撥雲餘興』を読解した吉田武三(吉田武三1964『拾遺松浦武四郎』

所収)には「この大著に収められた珍器逸品が、現在どうなっているかは筆者は、仄聞も目認もしていない」とあることから全く世に知られていないコレクションであったことが理解できよう。

詳細は不明確であるが、本コレクションは、三菱第二代社長岩崎彌之助(1885~1893)と松浦武四郎との交友の中で運良く静嘉堂に収まり、戦火、散逸の憂き目に遭わなかった奇跡のコレクションとも言える。幕末、明治前半期において、これほどまとまった個人コレクションは、まさに歴史的遺産と言えるものである。学術的には、これまで百万塔など、その一部について研究されたことはあった(増田晴美編著 2007『百万塔陀羅尼の研究』汲古書院)が、残された約900点に及ぶ考古、工芸資料については全く手がつけられていない状況であった。

北方探検家としての松浦武四郎研究は、これまでに幾多の著作が知られている(吉田武三 1972『定本松浦武四郎』上下 三一書房ほか)ものの、当然、好古家松浦武四郎に焦点をあてたものは無い状況であった。博物館学的にも近代前期における個人コレクション形成史という観点での研究は極めて少ない状況下、本コレクションをとりまく学術的評価はすこぶる高く、近代博物館における人文系資料形成史の観点から研究を推進すべき内容を多分に含んでいることが推定できたのである。

2. 研究の目的

明治政府の命を受け開拓使判官として蝦夷地に赴任「北海道」の名付け親として知られる探検家、松浦武四郎の好古家としての一面に焦点をあて、近代博物館における人文資料形成史の観点から、公益財団法人静嘉堂文庫に収蔵されている松浦武四郎(1818~1888)旧蔵コレクション(考古・工芸)の資料化と公開を目指すものである。本コレクションは、これまで世に知られることのなかったものであり、本研究によってもたらされる成果は近代初期に於ける文化財を中心とした人文資料形成史への新たなデータの蓄積となる。研究成果は、目録として刊行し、さらに静嘉堂文庫美術館において特別展示を実施し一般への公開を目指すものである。以下に研究期間内における研究目的を示す。

(1)コレクション形成に至る社会的背景、人物史の究明。

(2)考古、工芸資料の実測・写真撮影(デジタル)による資料化収納状況・木箱・四方箱その他収納状況の記録、研究(樹種、構造等資料保存史の観点)個々の資料の実測・写真撮

影。

(3)注記、書付、領収書など資料に付随する情報、『撥雲餘興』の記載にもとづく出土地由緒、来歴などの悉皆調査。

(4)中近東、欧州、北米の考古資料等、詳細不明資料の同定。

(5)大形の硬玉製勾玉など、非破壊による岩石学的同定、木製品同定の実施。

(6)報告書の作成(データベースの基礎資料)展示等による資料の公開。

3. 研究の方法

コレクションの正確な資料化を最優先とするため、資料に併せて最も適した方法を検討し、年度計画に基づいて図化・写真撮影を実施する。資料の安全を確保するため原図作成、写真撮影作業は基本的に静嘉堂内でおこない、その後のデジタルトレース、写真整理等の作業は他所で実施する。

資料に付随する出土地、採集地等に関する情報収集作業についても、資料全体を詳細に検討した後、文献収集、現地調査計画を実施する。併せて、本コレクション成立の時代背景を探るべく、関連する幕末から明治にかけての好古家研究、文化財保護行政史研究、博物館史研究を実施する。

〈資料化の基本姿勢〉

(1)コレクション全体を把握するため木箱に収納された資料、さらには一部未収納の状態で保管されている資料の器種ならびに数量把握。その際、清掃を兼ね資料のコンディションチェックを実施し、スケールを写し込んだ写真撮影による現状記録の実施。

(2)基本的には、松浦武四郎の意図によって整理されているため箱単位で記録する。

(3)資料に付随する注記、書付、『撥雲餘興』との照合等を実施し全て記録する。

(4)木箱そのもの、資料が収納されている四方箱、蒔絵箱、包布等についても実測、写真撮影を実施し記録する。

(5)実測は資料保存を最優先とし、松浦武四郎の手によって連結、装飾された石製装身具類を個々にばらして実測することは原則としてしない。実測の際、金属製真弧、金属製デバイダーは使用しない。

4. 研究成果

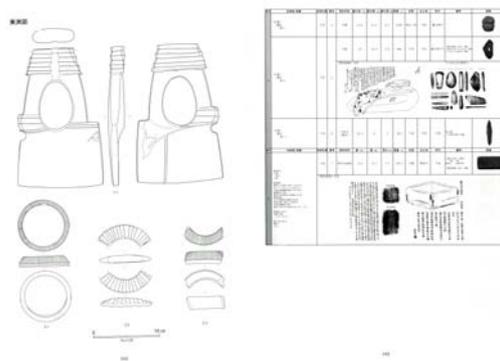
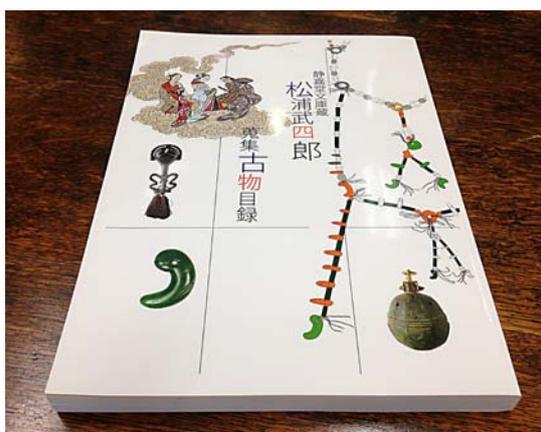
本研究によって公益財団法人静嘉堂文庫に収蔵されている松浦武四郎旧蔵古物資料約900点全ての整理が完成した。研究目的ならびに研究の方法に記した点についてほとんど余すことなく実践し、資料名称・実測図・法量・時代・地域・付随情報など詳細な記録を残すことができたと考えている。ただし、

個々の資料の学術的評価に関しては、本研究期間内では到底なし得るものでないことは、研究着手の段階で予想出来た事であるため、詳細記録（目録）の作製を研究目標としたため、一部の個別研究を除いて詳細な個別研究については、今後の研究課題とし、私自身のみならず多くの研究者の手に委ねたいと考えている。

本コレクション成立の時代背景を探るべく、実施した幕末から明治にかけての好古家研究、文化財保護行政史研究の中で、当時のキーパーソンとも言える柏木貨一郎(1841～1898)に関しては、松浦との交友関係だけでなく当該分野の研究上極めて重要と考え、様々な史料蒐集と分析を実施し、ある程度のまとまりをもって研究史への蓄積を行うことができた。

個別研究の成果としては、古墳時代の青銅器関連資料について具体的な評価を加えることができ、特に箱書きに出土地の詳細が記述されていた熊本県北岡山祇園（現熊本市春日花岡山周辺）に所在する横穴墓との関連、武蔵の好古家根岸武香（1939～1902）との交流を示す文書をもとに土偶人周旋をめぐる交流を明らかにすることが適った。また、各分野の専門家に依頼し、古墳時代石製腕飾類やエジプトなどの外国資料についても正しい評価を加えることができた点についても大きな成果と言えよう。

約900点に及ぶ個々の古物の詳細な事実関係は、p.248に及ぶ『静嘉堂文庫所蔵松浦武四郎旧蔵古物目録』（2013年3月31日刊行）として刊行、さらにその成果は、2013年10月5日より静嘉堂文庫美術館において特別展「幕末の北方探検家 松浦武四郎展」として一般公開する運びとなった。



『静嘉堂文庫所蔵松浦武四郎旧蔵古物目録』2013

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計2件）

① 内川隆志、村松洋介、「静嘉堂文庫所蔵松浦武四郎旧蔵資料の人文学的研究（古墳時代金属器編）」、『國學院大學考古学資料館紀要』、査読有、第28輯、2012年、pp.39-70

② 内川隆志、宇野淳子、「明治前期における好古家の実相—松浦武四郎と柏木貨一郎の土偶人の周旋をめぐる—」、『國學院大學研究開発推進機構紀要』、査読有、第5号、2013年、pp.23-49

〔学会発表〕（計1件）

① 内川隆志、宇野淳子、「近代初期における人文資料形成史の研究—松浦武四郎と柏木貨一郎—」、全日本博物館学会第38回研究大会、2012年5月8日、明治大学

〔図書〕（計1件）

① 内川隆志編著、『静嘉堂文庫所蔵松浦武四郎旧蔵古物目録』、2013年、p.248

〔その他〕

ホームページ等

<http://www2.kokugakuin.ac.jp/archaeology/matsuura.html>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

内川 隆志 (UCHIKAWA TAKASHI)

國學院大學・研究開発推進機構・准教授

研究者番号：80176677

(2)連携研究者

阪本 是丸 (SAKAMOTO KOREMARU)
國學院大學・神道文化学部・教授
研究者番号：30162308

加藤 里美 (KATO SATOMI)
國學院大學・研究開発推進機構・学芸員
研究者番号：40384002

(3)研究協力者

成澤麻子 (NARISAWA ASAKO)
静嘉堂文庫・主任司書
長谷川祥子 (HASEGAWA SHOKO)
静嘉堂文庫美術館・主任学芸員
山田 正樹 (YAMADA MASAKI)
静嘉堂文庫美術館・学芸員
大橋 美織 (OOHASHI MINORI)
静嘉堂文庫美術館・学芸員
笹木 義友 (SASAKI YOSHITOMO)

元北海道開拓記念館・学芸員
三浦 泰之 (MIURA YASUYUKI)
北海道開拓記念館・学芸員
山本 命 (YAMAMOTO MEI)
武四郎記念館・学芸員
宇野 淳子 (UNO JUNKO)
学習院大学大学院・人文科学研究科・アー
カイブス学専攻・博士後期課程